

「地域の中核、世界の人材」 U N I V E R S I T Y O F Y A M A N A S H I

山梨大学広報[ヴァイン]

Vine

August 2008 vol.5

全学共通教育科目で 何を身につけるのか(1)

—学習成果としての「知識と視野」—

[人物発掘]

片野耕喜准教授

(教育人間科学部音楽教育講座)

[ぴつくあっぷレッスン]

物理学実験I

[ゼミ紹介]

工学部コンピュータ・メディア工学科

メディア感性工学研究室

サークル紹介/クローズアップビーぶる/気になるお店

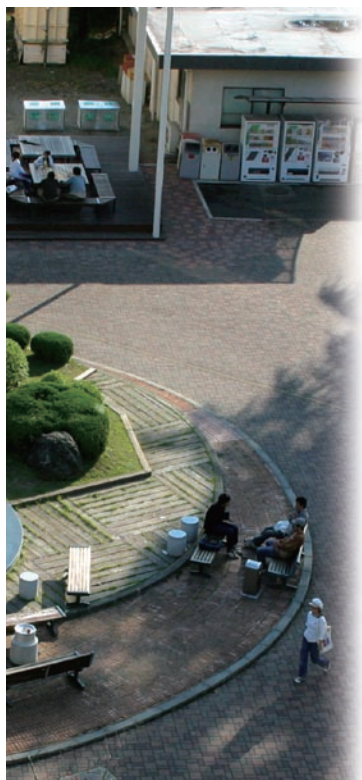




全学共通教育科目で 何を身につけるのか(1)

—学習成果としての「知識と視野」—

はじめに—学習の成果が問われる大学教育—



本誌4号(2008年3月刊)で「成果が実感できる学習を目指して」と題し、本学の全学共通教育の基本的な方向性を概説しました。そこでは、山梨大学の学生の皆さんが全学共通教育科目の学習を通じて身に付けてもらいたいものを、(1)知識と視野、(2)能力と技能、(3)人間性と倫理性、に分けて示し、『ちえ』『わざ』『ころ』が梨大生のマスト・アイテムであると述べました。そこで、それぞれの領域で具体的にどのような学習成果をあげていくことが期待されているのかについて、これから3回にわたり解説していきたいと思います。

ところで、少子化が進み、大学・短期大学の収容力(志願者数に対する入学者数の割合)が2007年には91%に達し(「大学全入」時代の到来)、入学試験が学生の質を保証してきた(ともすれば、それがそのまま大学の質を示してきた)時代は過ぎ去ろうとしています。また、学生や学位取得者が国境を越えて盛んに移動するようになり、例えば、学部卒業生に授与される「学士」の学位が、どのような知識や能力の証明であるのか問われるようになってきています。本年3月に中央教育審議会が公表した審議のまとめ(「学士課程教育の構築に向けて」)では、学士課程であればどのような専門分野においても共通に培うべき学習成果を「学士力」として示し、5月には文部科学大臣が日本学術会議に対して、「学士力」を踏まえた専門分野別の学位の質保証のあり方について意見の提示を求めています。

このように、「入るのは難しいが、出るのは易しい」といわれてきたわが国の大学は、「卒業生がどのような学習成果を獲得しているか」を社会に示せる大学へと転換することが求められようとしています。

学習成果としての「知識と視野」の意義



山梨大学の全学共通教育では、「知識と視野」の領域について、「生涯にわたって自ら学び続けるための基礎的知識と思考法を身につけ、歴史・古典に学び芸術に親しみ、また国際化や科学技術の進展に関する様々な知識を吸収して視野を広げることによって、物ごとを多角的・総合的に捉える力」を養うことを目指しています。これは、先の「学士力」の「1.知識・理解」に重なるものですが、どの学部にも所属する学生にとっても、人文・社会・自然に関する一定の基礎的な知識を身に付けることで「視野を広げる」ことがまず目指すべき成果となります。それが獲得できれば、専門教育を通じて学ぶ学問分野における基本的な知識体系の意味を多角的・総合的に捉えることも可能になるでしょう。

本学を構成する3つの学部はいずれも卒業後の活躍の場がある程度特定されることもあり、入学したらずちに専門的な教育を望む学生の皆さんも多いようです。そもそも、なぜ全学共通教育で自らの専門以外の科目を多くとらなければならないのでしょうか。時はさかのぼり、今から60年以上前の戦後教育改革期、現在の大学のカタチができる際、本学の前身でもあった



旧制の専門学校や師範学校の教育は、「あまりにも早く、しかも狭い専門教育」と批判されました。そして、新しい大学における「一般教育」（現在の本学では「全学共通教育」）は、これからの大学が育成する職業人の視野を広げて独創性の基礎を作る（「専門教育を真の専門教育たらしめるもの」と表現されています）教育として大学教育に組み込まれました。もちろん現在に至るまで、「一般教育」もさまざまな見直しがされました。1990年代にはそれを軽視するような傾向も一時期見られました。しかし、本学では、自分の専攻とは異なる分野の授業を聞いて視野を広げることが、専門教育科目の学習成果を獲得するための近道であることを再認識し、全学共通教育の重要な学習成果の一つに位置づけることとしたのです。

各授業科目の到達目標に見られる「知識と視野」

山梨大学の全学共通科目を履修する際、学生の皆さんは「文化の伝統と現代」「現代社会と国際交流」「科学と環境」「現代の表現とコミュニケーション」「人間の生命と健康」という5つのテーマから1つを選び、そのテーマに属する「文化系」「社会系」「科学系」「心身・芸術系」「国際交流系」という5つの系統に分かれる科目とそのテーマの「基幹科目」（テーマ別教養科目）の中から、3系統以上にわたるように科目を選択していきます。ですから、このテーマ別教養科目が視野を広げるための科目群としてまず位置づきます。ただし、学生の皆さんのテーマ選択の状況は専攻分野に近いテーマを選択する傾向が強いです。

各授業科目のシラバスを見ると、どのテーマであってもそれに属する科目の80%程度が「知識と視野」に関する到達目標を掲げています。「〇〇に関する基礎的な知識や基本原理、概念を理解する」といった表現が多くなされていますが、実際に「説明できる」かどうかで理解度を把握しようとする授業もあります。また、それぞれの学問固有の考え方や方法を理解することを目指している科目もあります。自分自身が専攻する学問とは異なるものの見方、考え方を理解することが、物事を多面的に見ることができ、すなわち「視野を広げる」ことにつながるのです。

なお、「知識と視野」はテーマ別教養科目だけの専売特許ではありません。人間形成科目でも、自らが学ぶ大学やそれが存在する地域社会に関する理解、自分自身の心身の健康保持のために必要な運動やセルフコントロールの重要性についての理解、いろいろな職業での経験、価値観、生き方を知ることによる視野の拡大、などが目指されていますし、語学科目でも、テキストが取り上げるさまざまなトピックや時事問題に関する知識、あるいはその言語が使われている地域の社会や文化に対する理解を目標とする科目が多く見られます。

山梨大学の全学共通教育では、学生の皆さんが様々な知識と思考法を身につけ、広い視野をもつことができるよう、幅広い学問分野を網羅する授業科目を準備しています。その一方で、テーマや科目の選択については学生の自主性を尊重しています。学生の皆さんには、自分が将来専攻するものとはあえて異なる分野の学問を積極的に選択しておくことが、専門教育の学習成果を一段高いものにするのを是非認識しておいていただきたいと思います。



各専攻分野を通じて培う「学士力」～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針～（抜粋）

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

(1) 多文化・異文化に関する知識の理解

(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

3. 態度・志向性

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

<出典：中央教育審議会大学分科会制度・教育学会「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」2008年3月25日>



Katano Koki

片野耕喜准教授 (教育人間科学部音楽教育講座)

手塚治虫(故人:マンガ家)を尊敬、趣味はガーデニングと野菜作りで、身体が楽器なので毎日ストレッチと呼吸法は必ず30分はやっていて、さらに今はWii Fitに夢中という片野准教授にお話を伺いました。

く尊敬しています。このゲーム機・ゲーム機と言うより私にとっては健康管理の手助けをしてもらっている相棒と言えるかもしれませんね。



身体が楽器というのは

声楽家ですから楽器は使いません。声が全てなので体調には凄く気を遣います。ですから、毎日ストレッチと呼吸法は30分から1時間はやっています。また今はWii fitに夢中です。ヨガとかバランスは必ずします。後、ボクシングもやりますよ。やり過ぎですって注意され時間を見ると20分くらいやっていたりします。これも、歌のための体力づくりですので仕事の一環ですね。

どうして夢中になったのですか

Wii Fitを作った人達のアイディアが凄いなと思いました。ジョギングなんかちょうど良いテンポで走るようになっているので、テンポが違っていると注意されたりします。ゲーム機とは思えません。作曲と似てるんですよ。何もないところから新しいものを作りだす。そういう人に対して凄

声楽はいつ頃から始められたのですか

小学校2年ころからピアノ、歌はその前からやっていました。小さい頃はせっかちで落ち着きのない子でした。決断力が早く、行動も早かった所以他の人のやることが遅くて、遅くて気になってしかたが無かったのです。それに吃音がひどく言葉が上手に出なかったこともあって協調性に欠けているようにも見えたのでしょう、母親が心配して声楽というより歌の勉強をさせたんです。

音楽療法のひとつなんです、歌をやると吃音がなくなります。おなかから声を出してますから、歌っているときは大丈夫なんです。普通落ち着きがないと、習字とかを習わせるのですが、うちの母親は歌が好きだったので習わせたようですね。変に思われるかもしれませんが、高校生の時にみんなが予備校に行くのに、私は声楽のレッスンを受けに行っていました。

発掘人物

声楽をされていたのに 大学は教員養成課程の 出身ですよ

そうです。父親が教員で身近に感じていたし、尊敬もしていたので教員になりたいと思いついたんです。教員養成に進んだからといって音楽が出来なくなることはありません。ここでの音楽も別の意味で楽しいですよ。例えば山梨大学で音楽教育を専攻している学生さんを例にとると、1人の先生で十数人もの生徒のレッスンをする音大とは違って、1人の先生が6人くらいの学生さんに対応することができるのです。それから、音楽以外の先生方の講義もたくさん受けなければなりませんので、勉強することが多く楽しかったですよ。

どうして歌なのですか

やったことのある人でないと解らないかもしれませんが、自分の身体ひとつで自己表現が出来ることが楽しいのです。人前で自分をさらけ出すのが病みつきになります。生きているって実感するんですよ。ほとんどの人は、周りの人から注目を浴びるのが生まれたとき・結婚式・死んだとき だと思います。ですが、歌っているときは自分だけを見てもらえます。これが楽しいのです。

話題からそれるかもしれませんが、歌を含めて演奏が上手な人はオーラがありますよね。顔の表情が良く、立ち振る舞いにも気品があります。でも、そうでない人の演奏を拝見しますと、集中出来てないからかもしれません

が美しくないんですよ。オーラの欠片もありません。音楽も美の追究は必要だと思います。

学生さんが やってはいけないことは

勉強時間以上のサークルとアルバイトです。今の大学は「ところてん方式」で卒業は出来ないのに、どうして勉強以外の時間を重要視するのか解りません。私は音楽においては勉強することがとても多いと考えていますから、どうして勉強しないのか理解できません。

ドイツに留学していましたが、ドイツにはサークル活動と言うことが無いのです。特に音楽のサークルというものはありませんでした。ですから、日本にサークル活動があることが不思議でしかたがありません。

大学生に一言

とにかく国外に出ていろいろな人と接して欲しいですね。ですが、ツアーはダメですよ。出来ればホームステイがいいのですが難しいですかね。

日本で変な外人がいるってよく言われますが、外から見ると日本人が変であることが多いです。外国人は周りとのつながりを意識していますが、日本人は協調することの意識が強すぎると思います。日本を知るためにも国外に出て欲しいですね。

高校生に何かありませんか

受験勉強が大変だと思いますが、健康が最も大切です。体調を崩して好きな音楽が出来ない人をたくさん見てきました。健康は親から送られた最高の贈り物です。この贈り物に感謝して欲しいですね。

何度も言いますが、健康であって初めていろいろなことが出来ます。体調管理には十分気を付けてください。つねに体をケアして、息抜きをするコツを学んで!

ともかく
国外に出て
いろいろな人と
接して欲しい。



【略歴】

- 1990年3月 東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程音楽科卒業
- 1993年4月 東京芸術大学大学院音楽研究科声楽(テノール)修士課程 修了
- 1996年12月 ハンブルク音楽院音楽学部声楽科卒業
- 1998年12月 ブレーメン芸術大学音楽学部古楽科声楽専攻卒業
- 1999年4月 和歌山大学講師
- 2002年4月 山梨大学助教授
- 2007年4月 山梨大学教育人間科学部准教授

【専門分野】

芸術学(声楽、リート・オラトリオ、教会音楽、古楽)

【研究テーマ】

バッハの声楽曲 (Vocal music of J.S.Bach)
ドイツリート (German Art Song)
教会音楽 (Church Music)

【コンサート等】

- シューベルト《美しき水車小屋の娘》
(リサイタル:長崎/2008年)
- H.シュッツ《クリスマス物語》、バッハ《ミサ曲イ長調 BWV234》
(東京横浜ドイツ教会合唱団クリスマスコンサート/2007年)
- ベートーヴェン《遙かなる恋人に寄す》
シューマン《リーダークライス》Op.39ほか
(ベートーヴェンとシューマンの歌曲の世界～遙かなる恋人に寄す～/2007年)
- シューベルト《美しき水車小屋の娘》ピアノ:當山通子
(片野耕喜リサイタルとCD製作/2006年)
- J.S.バッハ《マタイ受難曲》
(第18回成田国際交流コンサー/2004年)
- バッハ《ヨハネ受難曲》福音史家
(ドイツ・ハンブルク/2004年)
- ヘンデル マスク《エイシスとガラテア》全曲
本邦初演 初稿HWV49a
(ヘンデル・フェスティバル[三澤寿喜監修]/2003年)
- J.S.バッハ《クリスマスオラトリオ》1・2・3部
(第17回成田国際交流コンサート/2002年)

Katano Koki



【学習目標】

実験とレポート作成を通じて、

- (1) 物理学の諸法則を理解する。
- (2) 実験器具の取り扱いに習熟する。
- (3) 自然現象を数理的に把握する態度を身につける。
- (4) データや考察を正確に伝達する文書の作成方法を習得する。

物理学実験I

【担当教員】

教育人間科学部理科教育講座准教授 長島礼人先生

教育人間科学部理科教育講座助手 守谷まゆみ先生

【授業の概要】

最初の2回の授業で、実験器具の取り扱いや、データ処理の方法について、講義と演習を行います。第3週以降は、以下に記す実験の各々に二人一組で取り組みます。

(1) 重力加速度の測定、(2) ヤング率の測定、(3) スプリングバランス、(4) 弦定常波の実験、(5) 気圧計、(6) 線膨張率の測定、(7) 熱の仕事当量、(8) レンズの焦点距離の測定、(9) 回折格子、(10) ニュートン環、(11) 電気抵抗の温度係数、(12) オシロスコープの使用法とその応用。

力学関連の項目を中心に、熱力学、光学、電磁気学関連の項目をバランスよく配分しています。取り組む実験項目の順番は学生ごとに異なりますが、12週間かけて、上記全ての項目の実験を行います。

物理学実験Iは、教育学部の2年で履修することができます。主に理科教育と環境科学を専修している生徒が取る科目ですが、中学校と高校の理科教諭を目指す人には必須の科目です。「物理なんてわからない」「むずかしい」と思う人もいるかもしれませんが、ここでは中学や高校で習った法則や原理を、実験を通して体感してもらいます。実験自体も様々な器具があり、それを操作するだけでもおもしろいのですが、「(9) 回折格子」では、水銀灯の光のスペクトルの色のグラデーションがきれいに見えたり、「(5) 気圧計」では気圧計を片手に甲府駅や武田神社の気圧を測りに出かけたりと、今までやったことのない事や見たことのないものに触れることができます。実験に必要な知識は皆さんが中学・高校で学んできたことで、教科書にも記載されています。その知識に実験による体験を合わせることで、よりその現象を理解することができると思います。また、実験ごとに用意されている章末問題を解いてレポートを提出しますが、実験を通して理解しきれていないところや誤った理解をしているところなどは、教授とのレポートのやり取りによって自覚し、自ら正しい理解を探究することができます。

長島准教授から一言

学生の実験レポートを読んでいると、例えば以下のようなものを、特にこの2～3年でよく目にするようになりました。「海拔約300mの大学で測定した気圧を、海面上での気圧に換算した結果、その値が正確に1気圧とはならなかった。1気圧からのズレは実験誤差である。その原因は…」と、誤った前提条件—海面上での気圧は常に1気圧—に基づいて、考察を展開したレポートを目にする頻度が増えてきました。こうしたレポートを書いた学生も、「今日の日本列島は大陸からの高気圧に覆われて…」といった天気予報の台詞は常日頃から耳にしているはずなのですが、その知識—気圧は時間とともに変動する—が、レポートを書いているときには、意識の上にはのぼってこなかったのです。日常生活の中で耳にする事柄を、授業で学ぶ事柄に結びつけて考えることで、自然現象への理解を深めようとする意識を持って下さい。また、そうしたものの捉え方は楽しいということを、子どもたちに伝えられる理科の先生に、是非なって下さい。





「人間の感性」を解き明かし、 「感性」に合う環境やモノを作り出す。



モットーは「楽しく!積極的に!」。

積極的に研究に取り組み、よく考えて、
本当の面白さを発見する喜びを感じてもらうことが目標です。

メディア感性工学研究室の研究テーマは、「人間の感性に適合したシステム」の実現です。小澤教授は、音響信号処理の研究を行っており、みなさんがよく使用するMP3 プレーヤーなどの音のデータを自由に扱うことで、ヘッドホンで聞いているのにあたかも実際のコンサートホールで聞いているかのような臨場感の高い音を作り出す研究を行っています。木下助教授は、使う人の感性に合ったモノのデザインを自動的に作り出す装置、例えば「暖かい」イメージを与える携帯電話のデザインを自動的に生成するような装置の実現に取り組んでいます。また、音やデザインに関する感性は人間の視聴覚、さらには脳の活動に関係することから、同じ山梨大学にある医学部の脳研究室との間で、医学と工学を融合させた新し

い医工融合研究も行っています。

研究活動は、週に1回の「研究ゼミ」と、テーマごとに行なう個別ミーティングを中心に進められます。研究ゼミでは、研究室のメンバー全員の前で、自らの研究の途中経過を発表します。この発表には、自らの研究成果を「わかりやすく人に伝える能力」を養うという目的と、発表に対する質問を受ける中で、今後の研究の進め方を再度

確認するという意味があります。一方、個別ミーティングでは、具体的な研究内容や方針についてディスカッションを行なうことで、問題解決に対する工学的な考え方を身につけてゆきます。

研究室は、少人数のアットホームな雰囲気が特徴です。平成20年度の研究室メンバーは、4年生7人、大学院修士課程2年生1人で、総勢8名です。両教員の明るい人柄もあり、学生との交流も盛んに行われています。例えば、1999年に始まった「小澤杯」ボーリング大会は、年に数回のペースで今も続けられています。小澤杯のトロフィー獲得という栄冠を目指して、学生と教員の垣根を越え「楽しく」「真剣な」戦いを繰り広げます。また、こうした交流は、OB・OGとの関係の密接さにもつながっています。多数のOB・OGが年に1度は研究室を訪れ、学生と一緒にバーベキューなどを通して交流を深め、社会で働く喜びや、社会の厳しさなどを教えてくれます。

メディア感性工学研究室は、研究をととして「積極的に」様々なことに取り組むことで、専門性・社会性を養い、お互いに切磋琢磨し人間性を磨ける研究室です。





甲府
Campus

free music

大学で新しいことを始めてみようと思っている人、
思いつき演奏したくてうずうずしている人、
そしてなにより歌や音楽が好きな人は、
ぜひ部室やライブに顔を出してみてください!!

フリーミュージックとはその名の通り、音楽のジャンルや方向性を問わず、仲間とともに自分たちの好きな音楽を自由に演奏して楽しもうというサークルです。

現在部員は40人を超え、それぞれ気の合うメンバー同士でバンドを組み、バンドごとに活動を行っています。具体的には、毎週水曜に開かれる部会で練習の枠をとり、音楽棟一階の部室で曲の練習に励むといった感じです。自分達の都合に合わせて練習日や時間を決めることができるため、授業やバイトで忙しい人でも練習の予定を組みやすくなっています。個人練習もOKで、自分のスキルアップのためにひたすら練習することもできます。

もちろん練習を行うだけでなく、毎年いくつかのライブを企画しています。4月の新入生歓迎ライブに始まり、7月のセタライブ、11月の学園祭ライブ、12月のクリスマスライ

ブ、3月の卒業ライブなど、ステージに立って演奏する機会は多いです。最近では山梨県立看護大学とも提携し、看護大学の学園祭でもライブを行っています。ライブは音楽等で開催するほかに、ライブハウスで開催することもあります。誰でも気軽に観に来られるので、ぜひ足を運んでみてください。一緒に盛り上がりましょう!そして、ライブの後は全員で打ち上げが鉄則です!部員だけでなく、ライブに来てくれた人も大歓迎です。

一人で演奏するのとは違い、仲間とセッションすることで、互いに高めあい、それぞれの音の共鳴を感じることができ、曲が完成した時や、ライブが成功した時の達成感は計り知れないものがあります。大人数ではなく、4・5人というバンド単位で演奏するからこそ、その興奮や得られる充実感はハンパないです。

どのバンドも個性的で、パンクロックからバラードまで、曲のジャンルはとても幅広いです。コピーバンドが多数ですが、中にはオリジナル曲作成を中心とするバンドもあります。なので、ここフリーミュージックでは、誰でも自分に合った、自分の好きな音楽、またそれをともに演奏する気の合う仲間を必ず見つけることができます。大学に入ってから楽器を始める人も多く、ギター、ベース、ドラム共に大いに練習することができます。

もちろんヴォーカルも。部員は1年中募集しています。



バドミントンはここが変!!

最近、ニュースで取り上げられることの多くなった“オグシオ”だが、画面上の彼女達のプレーから、その本当の躍動が視聴者に100%伝わることはほとんど無いと言ってもよいのではないのでしょうか。実際にバドミントンの試合ではどんなことが行われているか、あなたは想像できますか。バドミントンは、精神力・技術力・パワー・持久力はもちろんのこと、300km/hものスマッシュを至近距離で打ち返したり、多彩なショットに対応したりするためには、反射神経、予測する感性、迫力に負けない勇気が必要になるんですよ。

医学部バドミントン部はここが変!!!

実は…医学部バドミントン部は、東日本医科学生総合体育大会において過去7年間メダルを逃したことがない。金3、銀1、銅3獲得しています。医学部バドミントン部は初心者初めの人が大勢で、初心者から始めて個人戦ダブルス3連覇を達成した人もいますよ。これは、その人の才能とか練習量とかの問題だけではなく、単に環境が良いことが挙げられるのではないのでしょうか。バドミントンを遊びでやっていて楽しいと感じる人は、スポーツでやっても同じ様に楽しいと感じることができます。時には、辛くなることもあります、バドミントン部にはやさしい先輩方やかわいい後輩がたくさんいて、そんなことがすぐ忘れます。先輩や後輩とは部活の時だけではなく、プライベートでも遊んだり、楽しい学校生活が送れます。

とにかく部員同士の仲がいいことだけが自慢です。それ以外には何もありません。恒例行事としては、花見、ワイナリー見学、BBQ、花火大会、スキー・スノーボード合宿を行っています。部員の人数も、医学部の部活の中では40人以上と比較的多いので、1年中みんなでワイワイ楽しんでいます。また、バドミントン部では県外へ遠征する機会があるのも魅力の1つです。他大学のひとと一緒に練習や試合をしたりして、交流の輪を広げることができます。特に、東京大学、信州大学とは交流が深く、毎年交流戦が行われています。仲良くなればユニフォームを交換したりもするんですよ。ちなみに、バドミントン部は、月・木・土の週3回活動しています。



医学部
Campus

医学部バドミントン部

男子も女子も
一緒になってできるバドミントンは
とても楽しく、
いつの間にか上達しているの、
さらに楽しさが増していきます。
人生の中で、
一度はやってみたいスポーツ…
それがバドミントンです。



Let's enjoy playing
Badminton.



クローズアップびーる

Close-up People

医学部医学科 3年

大野洋一さん

医学部キャンパスの学生が
どのような日常を送っているのかを知るべく、
今回は医学科三年の大野洋一君に
話を聞いてみました。

◎勉強について

Close-up People 入学前の得意な科目は何でしたか？

物理・数学でした。論理を組み立てていくところが好きですね。論理的思考は暗記が多い医学の勉強にも役に立ってます。普段は使わなくても、研究などする分野に進んだりすれば暗記したものを掘り起こすだけでなく、頭を使わねばならないこともあると思います。それに臨床でも患者さんに頭ごなしに治療について説明するのではなく、数学の答えを導くように筋道を立てて説明できることも重要だと思います。そういう考え方ができるのが大切ですね。

Close-up People 今一番興味がある分野は？

生理学です。やっぱり論理的なんですね生理学は。基本を押さえれば、「あれが作用してこれがこうなって…」というように予想がつかます。考えれば答えを出せる、応用がきくところが楽しいです。

Close-up People 勉強の動機付けとなるものは？

勉強が好きだったのもあるけど、それだけじゃやっぱりつらくなるときもあります。一番は自分が理解したところを人に教えるのが好きなんだと思います。教えてあげられるぐらい勉強して他の人を助けてあげられる、その人の勉強がそれで進むなら自分もうれしくなります。

Close-up People どこでよく勉強しますか、またどれくらいするのですか？

図書館ですね。二年生の頃は毎日二時間くらいでしたね。自分でその日調べることを決めてやりました。授業に関係ないことでも知れたかったらいろいろな本を開いて調べていました。

◎部活動(所属する軟式テニス)について

Close-up People 大野君にとって部活はどんな場ですか？

自分を人間的にも身体的にも高めるところですね。ダブルスということで組んでる人のことを気遣うことが必要になってくるし、次期から部長になる予定なので、その意味でも僕にとってとても重要ですね。

Close-up People 練習はハードと聞いたのですが、とくにこれから東日本医科学学生総合体育大会(以下、「東医体」という。)に向けてそれが増していくんじゃないでしょうか？

結構力入ってると思います。たまに授業抜けてやってたりするし。今度の東医体に向けて、ダブルスの前衛一つの空きをかけて僕を含めた五人がレギュラー争いをしているんです。初心者から始めた



から人一倍練習しなくちゃならないんですよ、しかも運動苦手です(笑)。

Close-up People 東医体に向けて意気込みを教えてください。

軟テに入ったきっかけは僕が一年のとき、四年生の部長にあげたからなんです。軟テが東医体で準優勝してこのときの「次はお前たちが軟テを引っ張っていくんだ。」という部長の言葉はいまでも印象深いです。その当時の部長さんが今は六年生で今年が最後の試合なんです。できたら東医体に一緒に出たい、そういう思いで頑張ってます。

◎趣味について

Close-up People 何かはまっていること、趣味はなんですか？

「この世界とは別の世界、ランタリジア…」これは僕の書いた小説のうちの一つであるマジカルパートナー(略してマジパト)の冒頭の一節です。他にも何作品か書いています。友達に読んでもらって感想をいってもらったりしてますよ。好評価だけではなくそれで打ち切りにすることもありますけど(笑)。恋愛ものの作品が多いなあ。あとパソコンで作曲もすることありますね。生産的で何か形になって残ることをしたいんですよ。その作品を読んでもらったり、聴いてもらったりしてもらうのが好きなんです。

普段は聞けないことをたくさん話していただきました。勉強も部活



もし、また趣味にも精神的に取り組む、忙しい中に楽しみを見つけている大野君に協力いただきました。三年生ということで学生時代はさらに三年間あります。よい思い出をこれからもどんどん作ってください。

LOCタウン山梨中央

山梨県中央市下河東400

【営業時間】

マックスバリュ/24時間営業 幸楽/11:00～26:00

戸田書店/10:00～22:00 大戸屋/11:00～23:00

ヤマダ電機/平日10:30～21:00 土日祝10:15～21:00

その他店舗/10:00～21:00

【駐車場】1,424台

6月12日グランドオープン!! 医学部生の最も注目するお店!!

ショッピングセンター「LOCタウン山梨中央」が医学部の隣に2008年6月12日にグランドオープンしました。教室から徒歩10分という近さ、店の多さ、広さ、きれいさに医学部生は感動しました。

医学部生のコメント

- A. 近くに電気屋さんがなかったからヤマダ電機ができて助かる。
- B. 夏の暑い時期は昼休みにサーティーワンにいったいます。
- C. きれいだから好き。医学部の近くにこんなところができるなんて。
- D. おもったよりいいかも。靴屋があるのがいい。
- E. 24時間のスーパーは医学部生の味方だ。
- F. 広くておしゃれな本屋さんがあってうれしいです。
- G. オープン時のマックスバリュはすごかった。山梨ではなかなか

見えない長蛇の列に感動!!
山梨にもこんなにひとがいたのか。うける(笑)

などなど医学部生の注目度は今年1番です。LOCタウンに行けば必ず医学部生に遭遇してしまうことがその注目度を物語っているのではないのでしょうか。



買い物にふけるボーダーを着た医学部生とその友人



LOCの看板が医学部生を呼んでいる!!

おしゃれなレストラン通り



美容室 Duét

山梨県甲府市武田2-1-7

【電話】055-253-4436

【定休日】月・第3日・月連休

【営業時間】9:00～19:00

【駐車場】焼肉屋ばくり駐車場

アットホームで落ち着ける美容室。



PRICE

Cut(ブロー込) ¥3,670

Perm ¥8,920～
(シャンプー、カット、ブロー込)

縮毛矯正 ¥14,700～
(シャンプー、カット、ブロー込)

Color(シャンプー、ブロー込)
カラーのみ ¥6,820～
カラーカット ¥8,400～



甲府キャンパスから武田通りを下り5分、左手にピンクの外壁の美容室が現れます。今回の気になるお店、『美容室 Duét』を紹介します。甲府キャンパスの学生御用達のこの美容室は、家庭的な雰囲気を持つとても親しみやすいお店で、店内に置かれているマンガを読むために来るという人もいるくらいアットホームで落ち着ける美容室です。

シャンプーやトリートメントにこだわりがあり、一人ひとりの髪質に合わせてシャンプーは6種類、トリートメントは7種類の中から合う物を選び、お客さんからもとても喜んでもらっています。スタイリングについては美容師さんとの会話を通して自分の思い通りのヘアスタイルになりますし、カット中も時間を忘れてしまうくらい楽しい時間になります。

取材に行ったときも忙しそうでしたが時間を割いていただき楽しいお話をたくさん聞かせていただきました。また、とても値段がリーズナブルで梨大生もよく来ているお店です。



お客さんのことを第一に考えてくれ男女問わずとても人気のある美容室です。一度足を運んでみてはいかがでしょう？絶対また来たいくなりますよ!

HiPer-FC プロジェクトが発足



NEDO(新エネルギー・産業技術開発機構)の委託を受けて燃料電池の開発・研究を進めるプロジェクト「HiPer-FCプロジェクト」の発足式と研究計画シンポジウムを5月23日(金)甲府市内で開催しました。

「HiPer-FCプロジェクト」とは、山梨大学がNEDOから7年間に70億円の助成を受け、高性能・高信頼性・低コストの次世代型燃料電池に必要な新素材の開発などを目指していくもので、新たな研究拠点、燃料電池ナノ材料研究センター(渡辺政廣センター長)を設置しました。

「連続市民公開講座」 がスタート



【日時・場所】

開催日:「スケジュール一覧表」参照
会場:山梨大学 甲府東キャンパス
A2-21教室
定員:330人
時間:午後1:30~3:00まで
(午後1時開場)
受講料:無 料

【申込方法】

受講希望日・住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、下記のいずれかの方法で「山梨大学教務課公開講座担当」宛まで送付してください。(事前申込が無くても当日参加可能です。)

◎葉書・封書の宛先

〒400-8510
甲府市武田4-4-37
山梨大学教務課

◎電話・FAXの場合

TEL055-220-8043
FAX055-220-8796

◎電子メールの宛先

std-admin@yamanashi.ac.jp
題名は「連続市民公開講座申し込み」

読売新聞社甲府支局と共催の連続市民公開講座「今、地球に何が起きているか〜地球環境と山梨、今そこにある大いなる挑戦〜」が、4月12日(土)に甲府キャンパスでスタートしました。

この講座は、全10回あり、地球環境の変化や温室効果の本質といった壮大なテーマから、周辺環境が生活に及ぼす影響などの身近な話題など幅広く扱っています。

第4回まで終了していますが、これから開催される講座がありますので、ぜひご参加ください。

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講 師
第1回	4月12日(土)	宇宙の進化と地球環境	平岡賢三特任教授 (クリーンエネルギー研究センター)
第2回	5月10日(土)	微化石で探る環境の歴史	石垣武久准教授 (教育人間科学部)
第3回	6月14日(土)	クリーンエネルギー戦略 ー水素/燃料電池社会の実現に向けてー	渡辺政廣教授 (クリーンエネルギー研究センター)
第4回	7月12日(土)	【持続可能な社会の実現】 地球のミニモデル山梨、前途は実に洋々たり	鈴木嘉彦教授(工学部)
第5回	9月13日(土)	エコツーリズム:環境と観光は両立するか?	尾見康博准教授 (教育人間科学部)
第6回	10月11日(土)	地域に根ざした住まい ー快適な住環境の創造と生活文化の伝承ー	田中 勝教授 (教育人間科学部)
第7回	11月8日(土)	食の安全と環境 ー生命活動に混乱を与える身近な物質ー	平 敬宏教授(医学部)
第8回	12月13日(土)	アジアの流域水問題	砂田憲吾教授(工学部)
第9回	平成21年 2月14日(土)	環境ホルモン:内分泌攪乱化学物質の健康への影響	有田 順教授(医学部)
第10回	平成21年 3月14日(土)	健康長寿を延ばす環境 ー健康寿命日本一を生む山梨の環境と社会ー	山縣然太郎教授(医学部)

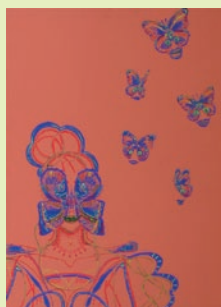
*講座の内容等は、ホームページ(<http://www.akjim.yamanashi.ac.jp/gakusei/kouza/renzoku.htm>)をご覧ください。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。いよいよ夏本番。洞爺湖サミットでも中心議題の一つとなった地球温暖化が世界的な課題ですが、それにしても甲府の夏は本当に暑い。「今日の最高気温」を熊谷、前橋と競い合う日が今夏も続くでしょう。でもこの暑さも美味しい桃や葡萄の生育には必要です。

学生の皆さんは夏期休暇期間に入ります。忙しい授業期間中にはできなかった体験や研究にじっくり取り組む絶好の機会です。実り多い夏休みになることを期待しています。

広報誌専門委員会委員長 藤原嘉文



表紙作品の紹介

タイトル「女」

齋藤千帆

教育人間科学部
美術教育専修 3年

山梨大学広報「ヴァイン」 August 2008 vol.5

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8024

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>

